

# CASBEE® 京都-新築

# 標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE京都-新築（2011年版）|使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

| 1-1 建物概要 |                      | 1-2 外観 |            |
|----------|----------------------|--------|------------|
| 建物名称     | 上京区総合庁舎              | 階数     | 地上4階地下1階   |
| 建設地      | 京都市上京区今出川通室町西入堀      | 構造     | SRC造       |
| 用途地域     | 商業地域 第一種住居地域         | 平均居住人員 | 200 人      |
| 気候区分     | 地域区分IV               | 年間使用時間 | 2,200 時間/年 |
| 建物用途     | 事務所                  | 評価の段階  | 実施設計段階評価   |
| 竣工年      | 2014年12月 予定          | 評価の実施日 | 2013年7月16日 |
| 敷地面積     | 3,598 m <sup>2</sup> | 作成者    | 東畑 渡邊有祐    |
| 建築面積     | 2,382 m <sup>2</sup> | 確認日    |            |
| 延床面積     | 7,958 m <sup>2</sup> | 確認者    |            |



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 3.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 79%

③上記+②以外の 78%

④上記+ 78%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア= 4.0

**Q1 室内環境** Q1のスコア= 3.8

**Q2 サービス性能** Q2のスコア= 3.8

**Q3 室外環境(敷地内)** Q3のスコア= 4.5

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア= 3.9

**LR1 エネルギー** LR1のスコア= 4.4

**LR2 資源・マテリアル** LR2のスコア= 3.9

**LR3 敷地外環境** LR3のスコア= 3.4

| 3 設計上の配慮事項  |   |  |
|---|---|--|
| <p><b>総合</b></p> <p>区民に開かれた親しみやすい総合庁舎として、人への「気遣い」、環境にやさしい「気遣い」、周辺環境に適した「気遣い」、内外部に木のやさしさを感じられる京町屋のデザインを踏襲した「木使い」等、随所に「き・づかい」が感じられる庁舎を目指した。</p> | <p><b>その他</b></p> <p>特になし</p>   |  |
| <p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>区民の親しみやすい総合庁舎とするため、木の温かみや質感を感じられるよう、床や壁の仕上げ材には木材を利用した内装を使用するとともに、交流スペースは吹抜のある明るく開放的な内部空間とした。</p>                     | <p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>建物内の「リフト」はもちろんのこと、各課の窓口がわかりやすい案内表示やオストメイト設備等、誰もが利用しやすい、人にやさしいユニバーサルデザインを徹底した。</p>                      | <p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>縦格子や瓦葺きとした庇など、随所に京町家のデザインを踏襲し、水平ラインを強調した外観意匠と和のデザイン意匠を採用することで、伝統性を表現し、周辺環境にふさわしい外観とした。</p> |
| <p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>階段室の煙突効果を利用した換気システムの他、太陽光発電、屋上緑化、省エネガラスの採用、雨水再利用等、自然エネルギーを積極的に活用した計画とした。</p>                                       | <p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>防汚性・耐久性に富んだ材料を選定し、周辺環境から突出しない京都らしい外観と調和のとれた色彩に配慮した。省水型機器の採用やリサイクル材に利用により、限られた資源を有効に活用した計画としている。</p> | <p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>外構計画において植栽や浸透性のある舗装材を採用することで、雨水の地下浸透に努め、芝生や低木を植えることで、周辺温熱環境の改善を図る。</p>                        |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される